

2014 International CES High End Audio 関連ブース見聞記

森 芳久

今年も恒例の International CES が Las Vegas のコンベンションセンター(LVCC)、隣接する Hilton Hotel そして Venetian Hotel の 3 つの会場で開催された。ここに集まった 3000 社を超える電気関連会社とその最新の技術を披露する、文字通り世界最大の家庭用電気関連製品のショーであり、今年度の業界動向を占う最初のショーとしても注目されている。特に今年は景気回復が期待され、出展者数も前年比 40% 増となり、入場者数も 15 万人を超えたと聞く。

特に注目された大型商品は、3D プリンター、4K、8K など高精細大型モニター、さらには自動運転の車、そして変わったところではスケボータイプの自動一輪車、折りたたみ式電動自転車なども人気を博していた。また、当然のことながら、携帯電話とそのアクセサリ関連も多くの企業が出展し、ここには韓国や中国のメーカーが目立っていた。

今回は、ハイエンドオーディオに的を絞って会場を見て回った。ハイエンドオーディオ関連は、毎年 Venetian Hotel のコンベンション会場に集まり、特にサウンドデモをする各メーカーは同ホテルの Venetian Tower の 29 階～36 階の客室にブースを構え、思い思いのスタイルでサウンドデモや展示を行っている。そのため、じっくりと音を聴くことができ、来場者からも歓迎されている。

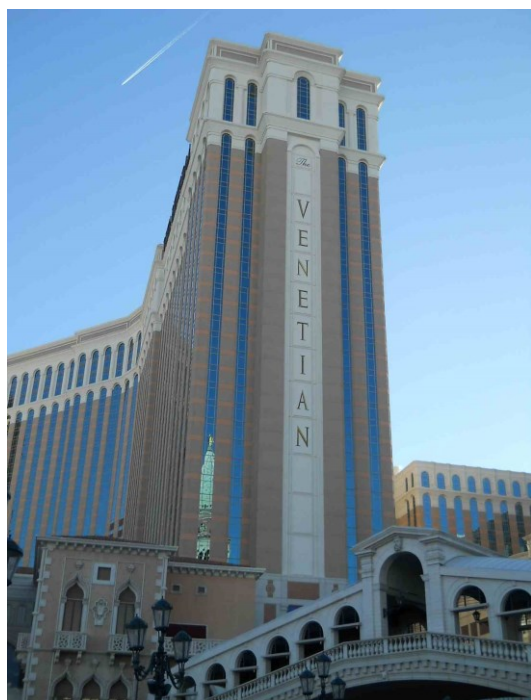


写真 1) ハイエンドオーディオの会場
となった Venetian Hotel



写真 2) 典型的なサウンドデモの客室
眼下にラスベガスの街を見下ろしながら
高音質のオーディオを楽しむ。

今年のオーディオの大きな傾向は、長大重厚なものが少し影を潜め、変わって小型のものが台頭してきているのがはっきりと分かるようになってきたことだ。もちろん、未だアナログレコードをプログラムソースのメインとしてサウンドデモをしているところもあるが、変わって PC にダウンロード音楽を詰め込み、これをプログラムソースとして演奏しているところが多くなってきたことも、今年の一つの大きな特徴であり、今後のトレンドを表しているといっても良いだろう。

SA-CD (Super Audio CD) もプログラムソースとして健闘はしているものの、ハイビット・ハイサンプリングの録音機や DSD (Direct Stream Digital) 録音機が大きな注目を浴び、またマーケットからも大きな期待をされている。KORG の MR-2 や TASCAM などの手軽な DSD 録音機の普及により、DSD 録音・再生の世界がさらに広がることを期待したい。また今年目立ったのは、高音質 DAP の急速な伸びを反映し、高級 DAP やそのための高級ヘッドホンまたイヤホンのブースの急増である。これらの製品は比較的どんな場所でも展示・試聴環境が作り易いため、他の出展者と同居しているところも多く見られた。

それでは、これらのオーディオのメイン会場となった Venetian Hotel の幾つかのブースを紹介してみたい。



写真 3) TAD のブース。今年は音源が CD やアナログレコードではなく、ハイレゾのダウンロード音源だ。詰めかけた熱心なファンの前で、TAD の有名な伝道師 Andrew Jones 氏のスピーチにも熱がこもる。



写真 4) 毎年最高峰のリファレンスラインをデモしているドイツの mbl 社も、今年是一段下のクラスの新製品、ノーブルラインで勝負。ただし、このノーブルラインでもスピーカーを含む全セットならば 500 万円を覚悟しなければならない。



写真 5) 同 mbl の新製品ノーブルラインのラインナップ ((左上) CD プレーヤー、(右上) インテグレートッドアンプ、(下) ステレオメインアンプ)。今年の半ばに発売予定だが、注目すべきは、このインテグレートッドアンプにも遂に DSD DAC が搭載されていることだ。ハイレゾ配信音源の流れは比較的保守的な立場を貫いていた超の付くハイエンドの世界まで浸透してきている。



写真 6) Ayra の小型アナログ/DSD コンバータ QA-9 ADC。ここでも確実に DSD が浸透してきたことが分かる。



写真 7) THIEL も今年は部屋の大きさに合わせたのか、小型スピーカーをデモ。だが、ドライブに使われていたのは Dan Dagostiono の MOMENTUM、超弩級のモノラル・パワーアンプだ。確かに聴き応えのする音ではあった。



写真 8) 昨年よりハイレゾ音源で再び元気を取り戻した SONY。今や看板となった SS-GR1 のデモに何やら新製品のアンプが・・・と、よく見ると VFET のアンプだ。ソニーの VFET アンプ発売 40 周年を記念して Pass Laboratories の Nelson Pass が特別に作ったものだという。No NF のこのアンプは低域がスッと抜けるように上品な音を出していた。SS-GR1 が心地よく音楽を奏でていたのが印象的だった。ここは「頑張れソニー」とエールを送ろう。



写真 9) 今や CD サイズの小型アンプ、DAC、CD プレーヤーなどで人気上昇中の Olasonic が、そのラインナップをアメリカでも発表。USA 代理店 AXISS 社長 Arturo Manzano 氏がその意気込みを語る。



写真 10) 小型ハイレゾレコーダー MR-2 や 1BIT USB-DAC DS-DAC-100m など人気沸騰の KORG のブースで疑似マルチチャンネルのデモが行われていた。確かに、デスクトップで簡単にマルチチャンネルが疑似体験できるのは面白いアイデアだ。



写真 11) MERIDIAN の小型 USB-DAC EXPLORER。米国における市販価格は \$300。左手に EXPLORER セールス・マネージャーの Martin McCue は日本のマーケットに大きな期待を寄せていた。PC 右手にあるのは同社の PRIME HEADPHONE AMP



写真 12) Mr. Wire。高品位の USB ケーブルを開発している Wire World のオーナー設計者の David Salz 氏。彼独自の理論でそのケーブルの優れた特性を延々と説明してくれたが、その熱い情熱はそのケーブルのようにロスなく私に伝わって来た。

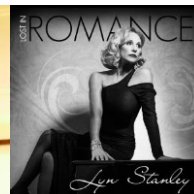


写真 13) 先頃国内で高級ヘッドホン、パンドラホープ VI を発表した Final Audio Design が CES でもブースを出した。偶然この

ブースを訪れたジャズシンガー Lyn Stanley 嬢がこのヘッドホンを聴き、感激のあまり涙を流した。すっかりこの音の虜となった Lynさんと Final Audio Design の高井 CEO の 2 ショット。

せっかくなので、彼女のレコードのジャケット写もご紹介しておこう。45 回転の高音質アナログレコードもあり、オーディオ装置のリファレンスにも最適。

さらに興味のある方は <http://lynstanley.com> をどうぞ。CES に限らずオーディオのブースではこのような出会いがあることが面白い。



写真 14) TEAC のブースで人目を引いていたレトロ調のラジオ SL-D930。小さなパーソナルオーディオが盛んな昨今、またこうしたクラシックなものに注目が集まるのだろう。もちろんスマートフォンやタブレットから Bluetooth で繋げるという最新機能は備えている。



写真 15) Venetian Hotel の大広間に儲けられたハイレゾコーナー。文字通りハイレゾ音源配信会社が集う。



写真 16) ハイレゾコーナーの一角にブースを構える HDtracks を主宰する David Chesky 氏。Chesky Record で数々の高音質ディスクを制作してきたが、いち早くハイレゾ音楽配信を始めた草分け的人物。



写真 17) CES と同時開催の THE Show. 市内の Flamingo Hotel で開催され、いわゆるガレージメーカーや新参メーカーなどが多いが、面白い製品や見るべきものが少なくない。これは SoundLAB の大型静電スピーカー-Magestic945。大きさを知ってもらうため説明員にお願いしてスピーカー側に立ってもらった。



写真 18) 同 THE Show。イタリアの真空管アンプメーカー-MASTERSOUND の設計者 Lorenzo Sanavino 氏。左右にあるのが 300B シングルエンデッド、クラス A で 15W×2 のステレオパワーアンプ。Compact 300B。とてもコンパクトには見えないが、もちろん音もコンパクトではなく朗々と鳴る



写真 19) これはおまけだが、会場のホテル内のカジノのコーナーに設置された、歌手として女優としても有名な Dolly Parton のスロットマシン。スロットの目が揃うと賞金はもちろん、彼女が歌ってくれる。もちろんスクリーンの中のビデオ映像なのだが、ファンにはたまらないサービスだ。誰がやっても何度かは当たるので、ジュークボックスと思えば安い。しかし音はイマイチ。どこかの音響メーカーが音質改善をやると面白いかもしれない。

ラスベガスで CES が開催されるということは、15 万人もの来場者が集まっても、宿泊するホテル、そしてナイトエンターテインメントが充実しているためだ。もちろんカジノが一番のエンターテインメントなのだろう。不夜城とか Sin City と呼ばれるこの街で、今年も世界最大の電気関連ショーが

開かれた。さて、その 3000 ものメーカーの中で今年はどこが大金を獲得するのだろうか。オーディオの世界が今年こそ大当たりをしてくれることを願って止まない。

筆者プロフィール： 森 芳久（もり よしひさ）

1964 年東京電機大学電機通信工学科卒。日本グラモフォン、品川無線、NHK 技術研究所（品川無線から出向）、ソニーなどでカートリッジの研究開発・設計に携わる。1990 年からソニー株式会社オーディオ事業本部商品企画室長、技術広報室長、SA-CD ビジネスセンター担当部長などを歴任。2002 年から 2011 年まで東京藝術大学非常勤講師を務める。現在、日本オーディオ協会諮問委員、「音の日」実行委員長、JAS ジャーナル編集委員。